

## 平成 25 年度 第 2 回 長野市総合計画審議会 会議録

日時：平成 25 年 8 月 28 日(水) 14 時 00 分～16 時 10 分

会場：長野市役所 第二庁舎 10 階 講堂

### 1 開会

(事務局)

定刻になりましたので、これから平成 25 年度第 2 回長野市総合計画審議会を開会いたします。私、本日の進行を務めます、企画政策部企画課長補佐の横山と申します。よろしくお願ひいたします。

本日の会議であります、本市の指針として、公開で開催することとしてまいりますので、御了承ください。

ここで、資料の確認をお願いします。本日の資料は、事前にお送りしました資料が 3 点ございます。

平成 25 年度 第 2 回長野市総合計画審議会 会議次第、平成 24 年度 第四次長野市総合計画 後期基本計画 進捗状況(報告)、人口減少時代に対応した長野市のまちづくりを配布させていただきました。8 月 6 日付けで、本日の会議資料についてご通知申し上げた際に、委員の皆様には、以上の 3 点をお持ちいただくようお願い申し上げます。

それ以外に、お手元にご用意させていただいた資料として、審議会委員提供資料と「人口減少時代に対応したまちづくり勉強会」開催(案)の 2 点がございます。

なお、その 2 点のうち、審議会委員提供資料は、事前に、委員の皆様から、ご発言に関する資料等がある場合にご提供いただいたものを、一つにまとめたものとなっております。

また、この資料は、審議会委員個人の著作物に該当しますので、コピーやネットへの転載は、ご遠慮願ひます。

不足の資料等がありましたら、お近くの事務局職員にお申し付けください。

また、本日の会議に、高木亜矢子委員からご欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

それでは、会議次第に沿ひ、進行いたします。

はじめに、総合計画審議会 藤沢謙一郎会長からご挨拶をお願ひいたします。

### 2 会長あいさつ

(藤沢会長)

ご多忙の中、お集まりいただき、ありがとうございます。

今年の夏は、世界各地で異常気象が頻発しており、日本でも、記録的猛暑と豪雨、洪水によって、各地で被害が多発しました。そして、その被害は、特に過疎化が進み65歳以上が人口の多くを占める中山間地域においては、住民の避難をはじめとして、コミュニティ機能の脆弱さを浮き彫りにしました。

そのような中、本日の会議資料にもあるとおり、日本は人口減少時代に突入しており、長野市は、平成22年には約38万人だった人口が、30年後の平成52年には、約8万人減少し、およそ30万人になることが見込まれています。

『人口減少社会は大変だ、子どもが減り、高齢者が増え、経済が成長せず、負担が増える』といった悲観的な予想は少なくありません。

本日は、委員の皆さん同士で議論を深めていただき、このような人口減少下でのまちづくりに通じるヒントを導き出せればと思います。

また、事務局では、今後、人口減少時代に対応したまちづくりに関する勉強会の開催も予定しているそうです。

審議会としては、その内容も反映させながら、検討を重ねて、最終的には、来年5月頃、人口減少時代に対応したまちづくりについて、次期総合計画策定に向けた審議会意見という形で、市長に提案していきたいと考えております。

限られた時間ではありますが、活発なご協議をお願いいたします。

### 3 議事

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、審議に移らせていただきますが、議長につきましては、長野市総合計画審議会条例第6条の規定により、藤沢会長をお願いいたします。

なお、審議の時間でございますが、事務局としましては16時をめぐりにお願いしたいと思っておりますので、御協力をお願いいたします。

また、議事において、委員の皆様が発言される場合は、お手数ですが、挙手していただき、議長の指名でお手元にマイクをお持ちしますので、お名前をおっしゃってから、お座りになったまま発言することをお願いしたいと思います。

それでは、議事の進行をお願いいたします。

(藤沢会長)

本日の議事に入ります。

次第の3(1)「第四次長野市総合計画 後期基本計画の進捗状況について」及び(2)「人口減少時代に対応した長野市のまちづくり」を議事とします。

まずは、(1)第四次長野市総合計画 後期基本計画の進捗状況 について、事務局から説明してください。

(事務局)

(1)第四次長野市総合計画 後期基本計画の進捗状況 について、ご説明いたします。

お手元に、別冊資料1とした「平成24年度 第四次長野市総合計画 後期基本計画 進捗状況(報告)」をご用意ください。

#### － 資料に基づき説明 －

第四次長野市総合計画 後期基本計画の進捗状況 についての説明は、以上です。

(藤沢会長)

「第四次長野市総合計画 後期基本計画の進捗状況について」、説明がありました。

市民の満足度を示すアンケート指標と、行政が取り組んだ成果を示す基本施策指標の2つの評価指標に基づいた、平成24年度の取組状況についての説明でした。

平成24年度は、後期基本計画初年度でありますので、なかなか進捗状況といっても、1年だけでは評価が難しいと思われませんが、ご意見やご質問があれば、お願いいたします。

#### 【質問・意見なし】

特にご意見・ご質問がなければ、議事「第四次長野市総合計画 後期基本計画の進捗状況について」は、以上にしたいと思います。

それでは、次に、(2)人口減少時代に対応した長野市のまちづくり について、事務局から説明してください。

(事務局)

(2)人口減少時代に対応した長野市のまちづくり について、ご説明いたします。

お手元に、別冊資料2とした「人口減少時代に対応した長野市のまちづくり」をご用意ください。

#### － 資料に基づき説明 －

人口減少時代に対応した長野市のまちづくり についての説明は、以上です。

(藤沢会長)

「人口減少時代に対応した長野市のまちづくりについて」、説明がありました。

さて、これから議論に入りますが、本日のこのテーマについては、会議冒頭のあいさつでも申し上げたとおり、委員の皆さんでの議論を深め、人口減少下でのまちづくりのヒントを見出せればと考えております。

まずは、お手元の審議会委員提供資料 目次の順番に、ご発言をお願いいたします。

(藤本委員)

人口減少時代に対応した長野市のまちづくりについて、考えを述べたいと思います。

1つ目の「65歳以上人口の雇用創出」については、健康で働ける人には、社会のために働いていただくことで、生産年齢人口の割合を高めることが出来ます。

そのために、「働ける人の意欲を増すキャンペーンをする」「高齢者雇用企業への補助金制度をつくる」「さまざまな雇用形態、柔軟な雇用形態を工夫する」といったことが必要ではないかと思えます。

2つ目の「子育て支援」については、「保育園入園要件の規制緩和（共働き、所得等）」「放課後子育て支援のために、幼稚園保育園の利用と補助金制度の導入（低学年児）」を行えば子育てがしやすくなるのではないかと思います。

3つ目の「転入促進」については、県外に進学した高校生が、市内の企業の魅力を知り、卒業後に戻って来てくれるように、高校生の企業体験や企業訪問を積極的に進め、企業のトップの方に企業の魅力を語ってもらう機会を設けたらどうかと思えます。

そのために、「長野市の高校（特に進学校）との連携の窓口をつくる」「経営者協会、商工会議所等と連携し、企業体験、企業訪問を受け入れる企業を発掘する」「充実した企業訪問になるように、学校と経営者協会、商工会議所、企業等と話し合いの場を設定する」といったことが必要ではないかと思えます。

4つ目の「地域の活性化」については、都市内分権の一層の推進、地域やる気支援事業の補助金の充実と広報が必要だと思います。

篠ノ井地区では、長野市おもてなし推進ネットワークと連動して、あいさつ運動を実施し、私は実行委員長を務めています。この活動の財政支援を住民自治協議会に依頼しましたが、支援がほとんど得られなかったので、地域の企業を回り、寄付を200万円ほど集め、たすきやのぼり旗を作って、あいさつ運動をスタートさせることができました。

私たちの活動の他にも、地域の活性化のために頑張っている方たちがいると思うので、新たな事業に対する交付金を用意していただきたいと思えます。

(宮下委員)

「人口減少時代に対応したまちづくり」について、意見を述べたいと思います。

住民の転出を抑制する、または新たな住民の転入を促進するという考え方に加えて、かつて転出していった長野市出身者に戻ってきてもらうという視点も、人口減少を軽減させるためには必要なのではないかと考えます。

都会での生活が長い人や、子育てを経験している世代ほど、長野市の良さを実感するケースは多いと思います。しかしながら、雇用、教育、福祉や医療等への不安から決断に至らず、首都圏などを定住地としてしまう傾向は続いています。

北陸新幹線の開通により長野市へのアクセスが向上するこのタイミングは、長野市が進めている様々な事業をPRする良い機会であり、長野市のイメージを変えるチャンスだと思っています。

さらに、①子育て世代（30～40代）②定年世代（60代）が、長野市に戻ってくることでメリットと感じられる取組が新設されるとより効果が高まると考えられます。長野市の良さを知っている人が長野へ戻ることで、わざわざ長野を知ってもらう段階（観光等）を省略することができるため、よりダイレクトで効果的な人口減少対策になるのではないかと考えられます。

（藤沢会長）

別冊資料2の21ページにも記載されている「新県立大学設置」に関連して、大学と地域社会との関わりについて意見を述べたいと思います。

大学とは、教育と研究を通じて地域社会に貢献していくことを使命としていますが、他にも直接的、間接的に地域貢献をしています。

信州大学を例に挙げると、5つのキャンパスに8つの学部があります。平成19年度の学生数は11,672人、教職員数は3,047人で、俗に言うタコ足大学ですが、それを逆手に取って、地域と共に歩む大学ということで、1つの特徴と捉えています。

平成19年度の学部入学生は2,078人で、うち県内出身者は32.4%の674人でした。5キャンパスの中では、松本キャンパスに多くの学生、教職員が在籍しています。

農学部は南箕輪村にあるのですが、村に幼稚園から大学院までであるというのは、全国的に見ても珍しいことです。毎年、学生が卒業しても、新しく入学してくるので、今回発表された推計結果では、南箕輪村の人口は減らないだろうという結果が出ています。ここからも、学生の存在は大きな意味を持つということが分かります。

私は、平成16年から21年まで信州大学の経営に携わり、大学を残していくためには、地域に理解してもらうことが必要だと考え、大学を紹介する資料を作りました。

信州大学が地域に与える経済効果（地域への直接需要）は、大学財政需要として237億円、教職員の消費需要として130億円、学生の消費需要として105億円で、地域別では、松本が53億円、長野が32億円、上田が13億円、南箕輪が7億円です。大学全体として、470億円ほどの経済効果があります。経済効果の他に、若者の存在による活性化、雇用の創出と、大学が与える影響は計り知れないものがあります。

現在、新県立大学設置についていろいろな議論があると思いますが、1学年の定員が240名ということなので、4学年で1000人弱の学生が長野市に集まるわけです。大学を作ることでだけでなく、開学後に地域としてどのように大学と共にまちづくりを進めるかということも考える必要があります。地域で活躍できない人が、グローバルなことをできるわけがないので、大学はグローバルなものを目指しながらも、地域と密接に結び付いて、地域を大事にしていくべきだと思います。

新県立大学の設置が、長野市のまちづくりにおいて重要な意味を持つと思い、信州大学を例に挙げてお話をさせていただきました。

以上、藤本委員、宮下委員、そして私から説明させていただきましたが、ほかの皆さんはどのようにお考えでしょうか。

(市川委員)

私の住む大岡は中山間地域で、人口が減ってしまって、高齢化率の高い地区です。合併後、大岡に住む職員は、45人から13人に減ってしまいました。

合併前には、高齢化率が長野県で1位、2位を争う状況だったので、村営住宅を45戸ほど建て、山村留学も取り入れて、一気に60人ほど人口が増えました。

しかし、現在は23戸の村営住宅が空き家になっていて、草が生い茂っています。これでは、入居者の募集をしても、住む気にはならないと思います。地区の皆さんも、動物が住みつくのではないかと心配しています。定住を目的に造成した住宅の環境を良くしていただき、空き家がなくなるようお願いしたいと思います。

(藤沢会長)

市川委員さんから、大岡では、せっかく作った住宅が空いているというお話をお聞きしましたが、何かご意見等ありますか。

(大日方委員)

鬼無里も大岡と同じ状況で、市営住宅の多くが空き家です。何が原因か分かりませんが、例えば家賃を大幅に割引く等の対策を取っていただきたいと思います。

鬼無里の住民のほとんどが1人暮らし、または2人暮らしです。1人暮らしの場合、病気になったら子どもたちに引き取られて、その家は空き家になります。

私の住んでいる萩の峯という集落は、今ある22戸のうち、人が住んでいるのは12戸で、あとはすべて空き家です。人が住める状態にするには、いろいろと問題があるのかもしれませんが、鬼無里の大半が空き家になってしまっています。

別冊資料2の13ページにある中山間地域の人口の推移のグラフを見ると、人口の減り方は右肩下がりの典型になっています。もっと地域に若者を回してもらいたいと思います。

埼玉県越谷市に富士中学校という名門校がありますが、ものすごく荒れていた時期があ

りました。10 数年前、その2年生が2泊3日の農家民泊で小川村を訪れ、荒れていた生徒が3日間でがらりと変わりました。それを目の当たりにした先生が、「学校教育では教えられないものが、農村にはある」ということで、それ以来、小川村での農家民泊を毎年実施することになりました。しかし、小川村は高齢化が進んで、それを引き受けることができなくなり、今は中条、鬼無里、戸隠が受け入れの支援をしています。農村での体験を、都会の若者にもっとさせたいと思っているので、長野市として対策を練っていただけるとありがたいです。

小川村には、若い夫婦が住みやすい住宅があつて、高い競争率だそうです。村には仕事がないので、白馬や旧長野市で働いているようですが、地区に若者がいるだけで、雰囲気が大きく変わります。

鬼無里は、中学生の修学旅行を受け入れて8年目になります。中学3年生が来て、お年寄りと一緒に、おやきを作ったり、そばを打ったりします。1泊だけですが、翌朝のお別れ会で、特に女子生徒は別れを惜しんで泣いています。おそらく、こうした体験や心境を味わったことがないのではないかと思います。農家民泊では、田舎の良さやお金で実現できないようなものを体験してもらうことが大事なので、長野市も何か対策を取ってもらいたいと思います。そして、人口減少のグラフの傾斜を緩やかにしていただきたいと思います。

(小林副会長)

大岡と鬼無里のお話が出ましたが、中心市街地にも若者がいないという現象が全国的に起きています。長野市は市域が拡大し、会議等で中山間地の問題が出ていますが、中心市街地も例外ではなく、市内のあらゆる所で若者がいなくなっています。

私の息子が、最近中心市街地に住みましたが、子どもが全然いないという現状です。中心市街地にも空き家が増え、そこが取り壊されて駐車場になっています。長野市全域で考えなくてはなりません、この問題は日本中全ての行政が抱えている問題だと思います。

いかに定住人口を増やすかということについて、長野市は県都なので、企業の支店や行政の機関が集中していて、県内外からの転入者が多いという特徴があります。その転入者は、数年で転出してしまうのですが、その間に長野市の良さを感じていただき、永住の場所として選んでいただきたいと思います。その時に、大岡や鬼無里を知っていれば、選択肢の対象になると思います。

別冊資料2の20、21 ページに、人口の流入と定着に関する取組について載っていますが、長野市が主に取り組んでいるのは、いかに観光客に来ていただき、長野市の良さを知っていただくかというものです。私も、10年間観光ガイドをしていましたが、観光に訪れた方が永住の地として長野市を選ぶということは、今まで一度も聞いたことがありません。しかし、転勤で長野市に来て退職を迎えた方が、長野市にそのまま住んでいる例はいくつも知っています。

先ほど、藤本委員、宮下委員からお話がありましたが、今まではIターンやUターンといった発想でした。私は、入ってきて出ていった方がまた戻ってくる、長野市のインシヤルのNを使って「Nターン」という発想を考えてみました。長野市を第二のふるさとにさせていただき、永住していただくことを、「Nターン」という言葉で長野市から呼びかけてみたらどうかと思います。

そのために、早い時期に転入者に長野市の良さを知っていただくためのご案内をしたり、人と人が交流をした時に、大岡、鬼無里、戸隠、信州新町などを知っていただくことによって、長野市の良さをインプットしていただくことが必要だと思えます。

(北村委員)

皆さんから良い意見を聞かせていただき、非常に勉強になりました。

今、長野市や全国で抱えている人口の問題ですが、まず地域が活性化しないと、住もうという気にはならないと思います。それに、なぜ子どもたちが長野市から都会に出て行ってしまうのかということも考えなくてはいけないと思います。

先ほど、藤沢会長の資料を見せていただいて、長野市の学生が、大勢信州大学に行ってくれば良いのですが、学力がなくて入れないということもあると思えます。それと、長野県に大学が少ないので、もう少し教育面での充実を図っていただきたいと思えます。

また子どもたちが大学を卒業したら、長野市内に就職ができるのかと言えば、それは難しいですし、他県から長野市に来た学生も、長野市内ではなく地元などに戻らなくてはならないような状況にあると思えます。

商業でも農業でも、後継者の育成がうまく進んでいないのが市内の現状です。後継者が育つような地域であれば、非常に魅力を感じて、子どもたちも戻ってくるし、お嫁さんを連れて長野市に帰って来ると思えます。中山間地の場合、お嫁さんを連れてきても、おじいさん、おばあさんの問題、後継者の問題、旧長野市に出るのに時間がかかるなどの理由で、市街地に出てしまいます。現状は非常に厳しく、その辺の問題を解決していくことも重要だと思えます。

また、子どもを増やすためには、まず結婚してもらわなくてはいけないので、結婚がしやすい状態を作れるよう、集団お見合いなど、行政としてもいろいろな施策に取り組んでいただければありがたいと思えます。

(猪俣委員)

長野市の人口減少について、今後30年で約8万人減ってしまうという予想ですが、うわべだけの施策では予想以上に人口減少が進むものと思えます。日本中の問題である少子化を何とかしなければ、人口減少の問題は解決できないと思えます。

大学進学で東京等に出て行く学生が多いですが、本当に勉強がしたくて行くというより、遊びたくて行く人もいます。そして、長野に帰っても面白くないから都会で就職



してしまう人もたくさんいる気がします。

少子化の問題や子どもたちの教育の問題を解決していかなければ、人口が減っていく傾向を止めることはできないと思います。移住などを進めて周辺の市町村から人を集めても、根本の問題を解決しなければ、一時的に人口を確保することができても、またもとの状態に戻ってしまうと思います。

魅力があって、住みやすく、他から長野に行き、住みたいと思ってもらえるような長野市にできるよう、じっくりと考えていただきたいと思います。

人口減少の問題は、お金があれば解決できる問題ではないと思います。

これから、我々長野市民が考えていかななくてはならない大きな課題だと改めて思いました。

(内山委員)

少子化や、子どもを生み育てることについて、お話したいと思います。

安心して子どもを生み育てる環境づくりという言葉をよく耳にしますが、長野市においても、幼稚園の延長お預かりや、ファミリーサポートセンターや、放課後子どもプランの充実等を考えていただいています。私は、こうした制度の充実も必要と思いますが、子どもが安心して育っていくためには、親との時間を与えてあげることが一番必要だと思います。

国で、子どもが3歳になるまで育児休暇を取れるようにしようという流れがあるので、市として取り組むことができないかお考えいただきたいと思います。6歳、または小学校低学年になるまで、勤務時間を短縮するといった、企業側のバックアップも必要になりますので、市からの働きかけもお願いしたいと思います。

以前、市のPTA連合会で発言させていただいたのですが、東日本大震災後、福島から長野に来たご夫婦と2歳のお子さんの家族がいました。お母さんが子どもを連れて、私が携わる地域の子育て広場に来てくれたのですが、2歳の子が小学校1年生の前半で習うようなひらがな、数字、アルファベットを読んでいたのです。震災後、外で遊ぶことができなかったのも、家の中で教えていたら読めるようになったそうです。長野に来てからは、公園や子育て広場に行って、走り回る子どもを見ることができて嬉しいとおっしゃっていました。10月には2人目の子どもが生まれるという嬉しい報告も聞いています。長野は恵まれた子育て環境にあります。子育てのしやすいまちづくりを一層進めてもらいたいと思います。

(中村委員)

地域に与える経済効果ということで、パルセイロについてお願いしたいのですが、パルセイロがJ2に上ると、人気チームになると思います。そうしたら、人が集まってきて、観光面でもお金を使ってくれる人がたくさん増えると思います。

市は、これから素晴らしいスタジアムを作るわけですが、「建物は市が作りました。あとは、市民で盛り上げましょう。」と言っても、やはり行政の力がなくては限界があります。

これからの人口減少社会を迎えることがわかっている中で、戦略的なものを今から考えていかないと、なかなか状況を変えていくことはできないと思うので、長野市に頑張りたいと思います。

(宮前委員)

長野市の人口は全国よりも10年早く減少が始まっています。中心市街地は全国よりも15年も早く減少が始まっていたということで、手を打つのが遅かったのではないかと思います。今後、中心市街地では人口が4万人減ることなので、その空いた場所を県立大学を活用して賑わいを取り戻していくのか、既に駐車場にした場所を再び活用していくのかなど、中心市街地を再生していく重要性も感じています。合併を繰り返してきた長野市にとっては、多核心連携を取っていかなくてはならない都市になってしまったので、それぞれの地域の特徴をいかさなければならぬと改めて感じました。

最近、日経新聞に出ていましたが、まちづくりについて、地方都市は高齢対応型にするために、鉄道駅を中心に病院や商業施設を集約するといった記事がありました。富山市では、中心市街地に住む方には、住宅購入の際に50万円の補助金を出しているそうです。

今日ここに来るまでは、中心市街地をどうするかということがこれからの課題だと思っていたのですが、大岡や鬼無里の話をお聞きし、やはり中山間地も大事だと思いました。計画を立てる時には、地域を分けて考えなくてはいけないと思います。

私は銀行に勤務しているので、コスト面を一番追求しなくてはいけないのですが、コストに見合わない投資であっても、中山間地の生活を見捨てるのではなく、それぞれの特徴をいかしてまちづくりを進めてほしいと思います。

計画策定の際は、細分化した見方をしながら、コスト面も考えていってほしいと思います。そして、私が思う長野市のまちの特徴は、善光寺が中心の町であることだと思います。長野オリンピックを経験し、新幹線もあるので、外に向けて顔を作っていくことも大事ですが、これだけ市域が広がってくると、全体的にやっていかなくてはいけないと思いますし、改めて問題の大きさを感じています。

(酒井委員)

人口減少問題についての質問ですが、別冊資料2の7ページで平成22年と平成27年の数字を比較すると、総数では8,826人の減少となっていますが、年少人口、生産年齢人口、老年人口の増減を合計すると7,380人の減少となり、一致しないのはなぜでしょうか。

人口減少のグラフを見ると、出生数が毎年1,000人近く減っていきます。その影響以外に、生産年齢人口が毎年減少してしまう要因は、学生が県外に出て行ってしまふ、転勤で流入してくる人たちが減っている、企業の支店が撤退してしまっている等が考えられます

が、長野市としてはどのように認識しているのでしょうか。

(事務局)

平成 22 年以前の人口の総数は、年少人口、生産年齢人口、老年人口の合計と一致しません。これは、国勢調査を実施した際に年齢を記載しない、年齢不詳の方がいるからです。平成 27 年以降は推計ですので、3 区分の合計が上の総数と一致します。よって、22 年と 27 年を比較すると誤差が出てしまいます。

生産年齢人口が減少する要因について、細かくは分かりませんが、単純な統計的なことから言うと、5 歳刻みでグループを考えているので、年少人口の 10 歳から 14 歳の方は、5 年後には生産年齢人口の 15 歳から 19 歳になります。生産年齢人口の 60 歳から 64 歳の方は、5 年後には老年人口の 65 歳から 69 歳になります。

仮に、社会動態を無視して考えると、10 歳から 14 歳のグループの人口と 60 歳から 64 歳のグループの人口のどちらが多いかによって、5 年ごとに人口が増えるか減るかが決まてきます。子どもに比べると、60 歳から 64 歳の人口が非常に多いので、自然動態では 5 年ごと確実に人口が減るわけです。

その他に、社会動態の要因があって、長野市は毎年約 500 人ずつ減少している傾向にあります。例えば、軽井沢のように人口が増えているところも、お年寄りが増えて子どもが減っているという部分では同じなのですが、たまたま外から働きに来る人が多くいるので、自然動態の減少を社会動態の増加で補っているのです。長野市の場合には、自然動態の減少を補うだけの社会動態の増加がないというのが統計上の分析です。

(酒井委員)

平成 22 年の人口ピラミッドの 60 歳から 64 歳の部分を見ると、人口が非常に多いのが分かります。出生率が非常に低い要因の 1 つに、結婚適齢期の人たちの結婚数が少なくなっていることがあると思うのですが、結婚をためらう理由として、結婚適齢期の人たちの年収が関係しています。

結婚、出産をサポートするための施策を充実させない限り、人口減少は想定以上に進んでしまうので、いかに支援していくかということが大事だと思います。

長野市の人口を増やす施策と、余分にかかるインフラのお金を抑制すること、子育てや結婚にお金を回すということを、トータル的に考えないとうまくいかないという感想を持ちました。

(島田委員)

皆さんの意見を伺って、そのとおりだと思いました。

先ほどの、転入した方に早い時期に長野の魅力を知ってもらうという小林副会長のご提案は大変良いと思いました。そのために施策を作っても、知る人ぞ知るということになっ

ては意味がないので、いかに効果的にアピールしていくかということも考える必要があると思います。

パルセイロについては、確かに実際に観に行くと盛り上がっていて楽しいのですが、やはり一部の方しか知らないというものになってしまっただけではもったいないので、新しい施設を作って、どんな人が集まって、どんなことをやって、どんな風に盛り上がっているかということ、メディアを使ったりしながら、うまくアピールしていかなくてはならないと思います。

人口減少については、一昨年、コミュニティデザイナーの山崎亮さんが長野市で講演会を開催しました。その際、「少子高齢化は止めることはできないし、今まで人口がどんどん増えてきた。ずっと増え続けるわけにはいかない、ある程度のところで止まるのは自然の摂理だから仕方がない。その上でどんな対策を考えていくかということが大切だ。」とおっしゃっていました。山崎さんは、例えば、過疎化が進む離島等で、人と人とを繋ぐことによって過疎化を止めるというお仕事をされている方です。大変興味深いお話を聞かせてくれます。

今度のまちづくり勉強会の講師の方はまだ決まっていらないようですが、どんなお話が聞けるのか期待しています。

私の友人から聞いた話ですが、小谷村が助成金を出して、外から村に若者を呼んで、農業や雪下ろしを手伝ってもらって事業に参加して、そのまま定住した人が何人かいるそうです。そういった田舎の良さをいかした、都会から人を呼べるような対策を考えると同時に、アピールの仕方が大事だと思っています。

(谷委員)

雇用の場がなければ、若い人は来ないと思います。

先ほど藤本委員からいただいた「65歳以上の働く人を増やす」という提案は、一時的な雇用は創出できますが、人口を増やすことにどのようにつなげればよいか考えなくてはならないと思います。人口を増やすには、若い人の働く場所をどうやって作るかということだと思います。

市民アンケートで気になったのですが、長野市は救急車のたらい回しが無く、待機児童も一切いないので、医療や子育てに関しては非常に住みやすい場所だと思います。ただ、雇用がないので若い人が来ないのです。大学生が、長野市に帰ってきたくても、自分が望むような職場がないというのが現実だと思います。これを解決するのは、非常に大変なことだと思います。

私は、長野市薬剤師会の会長ですが、今、薬学生は6年制になり、実務実習を病院と薬局で半年行います。何人か、長野市にも実習をしに来るのですが、就職の際は長野市に帰って来ません。薬剤師は、この地域で40人から50人ほど足りない状況にあるので、働く場所はたくさんあるのですが、一度県外に出て自由に暮らすと、実家に戻るのが嫌だとい

うのが若い人の考えのようです。これは、学校教育の影響だと思います。高校で、長野市にはこれだけ働く場所があるので帰ってくるようにと先生が教育しなければ、就職の際に長野市に帰ってくることはないと思います。

(藤沢会長)

いろいろなご意見を出していただき、ありがとうございました。

大きなテーマなので、どういった切り口で議論を進めていくか、非常に難しかったと思いますが、何度か議論を重ね、今日出た意見を整理してまとめていただいて、実際に行政が取り組んでいることと照らし合わせながら今後進めていっていただきたいと思います。

それでは、「人口減少時代に対応した長野市のまちづくりについて」は、以上にしたいと思います。

進行にご協力をいただきありがとうございました。

進行を事務局に返します。

(事務局)

それでは、まず「今後の予定」ですが、別冊資料2でもご説明しましたとおり、来年の5月頃までに、次期総合計画策定に向けた審議会意見をまとめる予定です。

スケジュール詳細については、決まり次第、ご通知申し上げますが、現在、事務局で一つ企画していることがございます。

お手元にお配りしてあります別紙「人口減少時代に対応したまちづくり勉強会」開催(案)をご覧ください。

別冊資料2の今後のスケジュールでご説明しましたが、今後、事務局において、年内を目途に、他自治体の先進事例と行政各分野への影響等の調査をまとめる予定です。

その調査結果の報告と共に、人口減少対応に関する講演会を、審議会委員と市職員合同の勉強会という形で来年1月に開催したいと考えております。

開催内容及び日程詳細については、決まり次第お知らせいたしますが、ご予定に加えていただくようお願いいたします。

そのほか、全体を通じて、何かご質問やご意見があれば、お伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【質問・意見なし】

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上で、平成25年度第2回長野市総合計画審議会を閉会いたします。